

産業建設常任委員会行政視察報告書

令和元年11月22日

1. 日 程 令和元年10月9日（水）～11日（金）
2. 視察先等 香川県三豊市 人口 62,951人（平成31年4月1日現在）
面積 222.70km²
愛媛県今治市 人口 159,696人（平成31年3月31日現在）
面積 419.14km²（平成30年10月1日現在）
3. 視察事項 三豊市 ・『バイオマス資源化センターみとよ』について
今治市 ・サイクリングでの観光振興について
4. 視 察 者 委員会 三沢 嘉男 委員長 橋本 昌美 委員
浅野 一明 委員 中野 元栄 委員
安武 秀敏 委員
当 局 藤田 明美 市長（初日のみ）
随 行 議会事務局 主査 吉田 和実

◎三豊市の概要

三豊市は、平成18年1月1日に三豊郡の旧高瀬町、旧山本町、旧三野町、旧豊中町、旧詫間町、旧仁尾町及び旧財田町の7町が合併し誕生した。

香川県西部に位置し、北西部は瀬戸内海に面し、北東部は象頭山（琴平山）、大麻山、弥谷山などに接し、南東部は讃岐山脈の中蓮寺峰、若狭峰、猪ノ鼻峠、六地藏峠などを境に徳島県に接している。さらに愛媛県や高知県にも近い位置にある。

交通条件は、北東から南西方向に高松自動車道、国道11号線、377号線、JR予讃線が走り、南東部には南北に国道32号線、JR土讃線が走っており、幹線交通軸を形成している。特に高松自動車道については、市内にさぬき豊中IC、三豊鳥坂ハーフICを有している。また、国道32号線を通じて井川池田ICとも連絡し、高松、松山、高知、徳島、岡山など各方面に向けて交通の利便性が高くなっている。

さらに、JR詫間駅、高瀬駅には、特急電車が停車するほか、土讃線の分岐点であるJR多度津駅、高松空港など交通の結節点にも近く、四国における交通の要衝に接近した恵まれた交通条件を有している。

また、海上交通の拠点として、国際貿易港である詫間港とマリンレジャーの盛んな仁尾港の2つの地方港湾（県管理）を有している。

○『バイオマス資源化センターみとよ』について

【バイオマス資源化センターみとよの概要】

運営主体 株式会社エコマスター
施設規模 鉄骨鉄筋コンクリート 延べ床 約 4000 平方メートル
施設設備費 約 16 億円
正式稼働 2017 年 4 月 1 日（年間 1 万トン）

【補助金等】

「バイオマス資源化センターみとよ」は優れた二酸化炭素排出抑制が認められ、低炭素に関する 2 つの環境省補助金を受けている。

- ・平成 27 年度
二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（廃棄物エネルギー導入・低炭素化促進事業）
- ・平成 28 年度
二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（低炭素型廃棄物処理支援事業）

この補助金の合計は機械設備費の 3 分の 1 に当たる 3 億 7 千万円。

【特 徴】

「トンネルコンポスト式」と呼ばれる、可燃ゴミを燃やさず資源にする、国内で前例のない手法。

生ゴミや草木などを微生物により発酵、分解し、その際に発せられる熱（約 70 度）で雑菌が死滅。酵素濃度や圧力、送風を自動制御し、有益な微生物が活動しやすい温度を保ち分解を促す。また、この発せられる熱で紙ゴミなどを乾燥させ固形燃料の原料として取り出す。これは石炭の代用として販売、使用できる。

更には、可燃ゴミを燃やさないことで二酸化炭素の排出を抑え、ダイオキシン類も発生しない。

【所 感】

「バイオマス資源化センターみとよ」は、ゴミを燃やさないため焼却炉を必要とせず、焼却炉を設置した施設の 3 分の 1 以下の低コストで済むことは、民設民営は別にして、今後、加茂市の焼却施設を考えた時、選択肢の 1 つとして参考にしてもよいのではないかと思う。ちなみに三豊市は、民設民営なので約 16 億円の施設設備費の負担はなく、ゴミ 1 トンあたり 2 万 4800 円（年間約 2 億 6700 万円）で 20 年間の委託契約である。

コスト以外にも、焼却しないことでダイオキシン類が発生しないこと、焼却灰の埋め立てがいらない、臭気や汚水も排出しないなど、メリットは大きいと感じる。

しかし、発酵処理後の紙やプラスチックを固形燃料に製造する工場や、石炭の代用として購入してもらえる企業があるかという点は、大きな問題である。

◎今治市の概要

愛媛県の北東部に位置し、高縄半島の東半分を占める陸地部と、芸予諸島の南半分の島嶼部からなる。

タオル、縫製、製塩、造船などが地場産業として発展するとともに、西瀬戸自動車道の開通により中四国の交流、流通の拠点となった。

平成 17 年 1 月 16 日の合併により、人口約 18 万人となり、四国で 4 県都に次いで 5 番目、県下で第 2 の都市に生まれ変わった。

風光明媚な景観と、大山祇神社、伊予水軍城址などの歴史遺産を誇る観光都市として、また造船、海運都市として重要性を高めている。

○サイクリングでの観光振興について

【概要】

平成 11 年、しまなみ海道が開通してから、沿線の旧市町村単位でレンタサイクル事業を開始し、平成 12 年には広島側レンタサイクルと相互乗捨できるよう基本協定を締結。しかし思うように貸し出し実績は伸びず、しまなみ海道という大資源のアピールの方法を見いだせていない中、平成 21 年のしまなみ海道 10 周年記念事業を期に、サイクリングの機運が高まる。

翌年の平成 22 年 12 月に愛媛県中村知事誕生後、県で「自転車新文化」を推進。これまで単なる移動手段であった自転車をスポーツとして位置づけ、スポーツサイクルという形でサイクリング事業も加速。現在ではサイクリストの聖地「瀬戸内しまなみ海道」として国際サイクリング大会を行うなど、年間約 33 万人のサイクリング来訪者がある。

【目的】

- 1 健康・生きがい・友情づくり
- 2 交流人口の拡大による地域活性化

【内容】

今治市は、しまなみ海道開通後、姉妹都市の尾道市と連携し、自転車を活用した観光振興策にも取り組んでいる。尾道市から今治市までの 70km をサイクリング推奨ルートとし、8 つの島を結ぶ 9 本の橋を、自転車でゆったりとした島時間・島旅・景観を楽しんでもらう。

また、尾道市・今治市・上島町から構成された一般社団法人しまなみジャパンでは、国内外の多くの人に来訪される地域となるために、エリア全体の一貫したマーケティング戦略のもと、広域的にマネジメントし、民間事業者と協働しながら観光産業振興を図っている。

【所 感】

瀬戸内しまなみ海道の解放感溢れる景観を見ながらの海の上のサイクリングには、とても魅力を感じる。車社会の現代において、自転車でゆったりした時間を楽しみ自然を感じることは、気持ちにもゆとりを与えるように思われる。

加茂市には海は無いが、加茂川や粟ヶ岳を始めとする山々に囲まれた自然豊かな土地柄である。今治市は現在、ネイチャーサイクリング推進事業として里山地域を主体としたオフロードで楽しむスタイルも推進している。オフロードのコースを整備し、今治市の里山の自然環境やオフロード自転車の魅力をアピールしている。

それを踏まえれば、加茂市でも自然豊かな里山の魅力発信、地域活性化を進めるうえで、オフロード自転車を活用できるのではないかと感じる。